

第5回 西日本視覚障害者ボウリング大会 競技規則

1 原則

この規則に定める以外は、全日本ボウリング協会競技規則及び国際視覚障害者スポーツ連盟、視覚障害者用テンピン・ボウリング・ルールによるものとする。

2 クラス分類

B1：視力0から光覚までの者で、いかなる距離、方向からも手の形が見分けられない者

B2：手の形の認知可能から視力が2/60（0.03）までか、視野が5度まで、あるいはその両方

B3：視力が6/60（0.1）までか、視野が20度まで、あるいはその両方
クラス分けについては、両眼とも可能な限りの矯正視力を届け出ること。

3 競技種目

個人戦：

個人戦はクラス別（B1、B2、B3）、男女混合で実施し、6ゲームの総得点で順位を決定する。ただし、女子選手には1ゲームにつき15点のハンディキャップを加算する。

4 補助具等

（1）B1、B2の選手については、必要に応じて方向確認のためのガイドレールを主催者が設置する。ガイドレールは高さ94cm、長さ370cmとする。ガイドレールはガター内側より板4枚外側で、レールの先端はファールライン手前40cmの位置に設置される。

（2）B1の選手は、国際規格のアイシェードまたはアイマスクを準備し、正しく着用のうえ競技しなければならない。

5 競技方法

競技の方法はフレーム毎にレーンの移動を行わないシングルレーン（ヨーロッパ）方式とする。レーン移動は3ゲーム終了後におこなう。

6 レーン配当

レーン配当は主催者が決定する。

7 競技中のサポート等

競技中のサポートは、原則として競技役員のみとする。

競技役員の役割

各ボックスには1名ないし2名の競技役員が配置される。競技役員は選手の以下の要望に応えるものとする。

- 1 アプローチ上の誘導
- 2 残ピン及び投球後のボールの方向確認
- 3 投球動作前の立ち位置の確認
- 4 スコア確認
- 5 ボールピックアップの補助

8 禁止事項

（1）投球動作時の介助及び言葉による指示はできない。

（2）ガイドレールは、方向確認のみに使用するものとし、バランスをとるために使用してはならない。ボールが手から離れる瞬間はガイドレールに

- 触れていてはならない。
- (3) マット・テープ・パウダーの使用等、競技場の物理的な変更をしてはならない。

9 服装

服装については、競技にふさわしい服装で臨むこと。

ポロシャツなど襟付きのシャツと長ズボンやスラックスを着用のこと。女子は、スカート、ショートパンツを着用しても良い。